
des鬼。

零夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

des鬼。

【Zコード】

Z6509Z

【作者名】

零夜

【あらすじ】

この世界では、des鬼と言つ。変な遊びいや・・・
犯罪と言つてもいいようなことが続いていた。
10人、この世界を逃げ回つてゐる・・・

ゲームスタート。

司「はあはあはあ . . .」

俺は、今逃げる。

そう、あのフードを着た鬼達から。

上も下も黒。そして、黒いフードのあいつらの右手には、ナイフでも刀でもない。やつらは、触れるだけで殺せる。
1 絶対殺傷能力

今、俺の目の前でも一人、心臓からさけて死ぬのを見た。まだ。16だと言うのに、人が死ぬのを目の前で見せられる。俺を含めて10人、逃げている。元々、この「des鬼」と言うのは、子供の遊びで。

増やし鬼のような物だった . . .

だが。それを、国の王、僕の実の兄であるが . . . その兄が、des鬼をもつと完全な物にしようと . . . 絶対殺傷能力をもつ鬼を作った。

奴らは、どんなスポーツ選手よりも足が速い . . . そんなdes鬼、につき合わされていた。

ゲームスタート。（後書き）

鬼ごっこ……楽しいですね……でもその鬼ごっこが。
タツチじゃなくて、殺されるとしたら？

ファーストステージ。（前書き）

逃げ回つてもう半日か・・・このままだと俺の体力がやばいな
持つだろつか？

ファーストステージ。

「ちつ・・またかよ！！」

俺は、エレベーターを降りた。

ドアを開いた瞬間に鬼が居た。

ヤバイつ・・このままだと死ぬ。

どうする？

そんな事を思つていると鬼が入ってきた。

「こひなつたら！・！・おらつ！」

俺は、狭いエレベーターの幅を利用して・・

足をエレベーターの壁にジャンプして、踏ん張つた。

そして、鬼同士がぶつかつた。

その隙に、ドアに飛び降り。エレベーターを降り。

そのままエスカレーターを駆け下りた。

鬼は、氣絶しているようだ。

その下には、？？「はあはあ！・！・まつたく・・しつこい。」

「お前も・・逃げてるのか？」

「貴方も？」

「見れば分かんだろ？」

名前は、？」

「私は、由里那・・貴方と同じ、逃げている」

「俺は、兄のせいでこんな目にあつてるけど

お前は？」

「私は、貴方の親が浮氣をして、できた子供、」

「じゃあ・・」

「ええ、隠し子よ。」

そんな事を言つている間に、あいつらが来る。

「また来た・・」

「休みがないな・・鬼になりてー」

「逃げることで、ここにいたいことを諒められないので、ついへりへり

ファーストステージ。（後書き）

des 鬼に明け暮れる日々 . .

そんな時、生存者を見つけて。

狙撃鬼。（前書き）

馬鹿馬鹿しいゲームが始まつて。

もう体力がほぼ残つてない。俺達は、ほぼ気力だけで走つてた。

そんなところに、本当に死ぬかもしれない・・鬼が居た。

それが狙撃鬼。走る俺達を上から、撃つて直接殺してしまおうと言

うわけかはあ。。最悪だ。

「はあはあはあ . . .

馬鹿馬鹿しいゲームが始まつて。
もう2時間が経過していた。

もう体力がほぼ残つてない俺達は、
倉庫に逃げ込むことができた。

それは、売られている物をしまつておく、
食糧庫のような所だつた。

「ここ」、食糧庫みたいね。ほら
後ろでガサゴソ . . やつていた。由里那が何かを見つけたようにな
う。

「これ、力口メ?」

「どうやら、チヨ「味 . . 私、チヨ「味。好き . . あううう／＼食
べたい。」

「いや。そこ妙にクールに言つなよ：
ほら、一つやる」

「あわわ！－！ありがと」

「お、おう . . .」

「それ。俺もくれるか？」

ダンボールらしき中から、声が聞こえる。

「誰だ？」

「俺は、^{じゅう}1重^{じゅう}云おつ . . そこの子可愛いじゃん？」

金髪に染めている。見るからにキャラそうな男、
ゲームで言つ。一人だけチャライが以外に強いキャラだ。

「何？貴方だれ？」

「さつき名乗つたばつかじやん？あれ？もしかして聞いてないって
奴？。そう、なんだ . . .

やつぱ僕つて

「こきなりしゃべり方を変えるのは、やめてくれないか？俺ひ。取つ付き難いんだが。」

「あ、『めん』めん。そつにえはもつと危険な鬼居るの。ニー知つてる？」「

「ニーじゃない．．俺、司。」

「おおじやあ、つかちゃん？宜しくーよひしきへやーん

「どこのギャグですか？それ．．

「さつきのつづき。あのな。鬼の中には、本気で俺達のことを殺やうとして．．銃や刃物を持つてる奴も居るって事。だから、俺達は、いつでもきけんつう事だぜー。それをつけねえとな。」

「で．．これからどうするんだ？」

「まずは、ここを出よ。」

「そうだな。」

そこにはだ．．

俺達のすぐ後ろに弾が飛んできて壁に食い込む．．

なんとか避けられた俺達は、

次の行動を悩んでいた。

「これ．．どこからだ？」

「あの上からだな。俺には分かる。」

「何時になく言葉使いが丁寧だね．．

「俺だつてこいつ言つ時ぐらには、俺だつて本気になる。命の危機だから．．

「次はどこよけるーー！」

「右に三センチだーー！」

「何つ？」

「信じられないか？

「くつーー危なつーー！」

「ちつーー！」

俺は、由里那の手を掴む！

「えつ？」

「手……離すなよ？」

「は、はい……！」

「うわあ……セツ！」

そこに追いかけてくる鬼が三体……

「小部屋時から出で……！」

俺が叫ぶ。

その時……

「あつ……」

「由里那つ……！」

「由里那さん……！」

「きやあああああ……！」

手が……離れた

いや……鬼に追いかけられ一人逃げたのだ……

「由里那あああああああ……！」

「そんなに叫ぶなよ？男がみつともないじやん？

俺に任せろ……あいつらには捕まえさせない

「分かつた。信じる。」

「絶対俺が守るぜ？けど……その時は俺の彼女決定だけどな？」

「勝手にしろ」

「ありがとよ……じゃあな？うおおおおおお行くぜえええ

重云は、部屋を出て行く……

俺は、食糧を集めるだけ集め。
部屋を出る。

つづく

狙撃鬼。（後書き）

由里那は、追われて出て行つた。
由里那を重云に任せて、
自分は、急ぐ兄を止めるために
・
・

生存者（前書き）

俺は、由里那と重云を一人にした後、
鬼に気をつけながら隠れて行動していた時の事、
「来ないで！！やめて！！キヤアア！！助けてえええ」と声が聞こ
えた。
行ってみると、女が居た。

生存者

「もう重云も死んだのか……いや分からぬ。今は、死なない事を考えて行動するしかない。」

「来ないで……やめて……キヤアアアー……助けて誰か……どうして？」
どうして皆死んでいくの……結局もう。私達を守る人はいないのね。もう、誰も……」

「どうすれば、生存者を助けるのがミッションだとして、自分が危ないからって。」

「諦めるのか？俺は……いや。もう田の前で人が死ぬのを見たくない。」

目の前で悲鳴が聞こえる。由里那のようになにかとしたりかけられていった。

おそらく捕まつたんだろう。いや、もう死んでいるかもしない。重云……無事でいるよ。

俺は今度こそ。

「もういや……私、死ぬんだ。」

「オラッ……」つちだ一鬼、生存者はここにもこるわおおおお……」

「はつ……」

俺の後ろから、5人の鬼が追いかけてくる。

俺は、全速力で逃げる。

「くそつ……なんで助けたんだ？俺。自分の命が可愛いはずなのに……」
助けてしまうなんて。やっぱり俺は俺か……それより。どこに逃げ込めば

「こつちだよ。僕は、どこに逃げればいいか分かる。」

「はあ？お前何言って？」

「信じて僕の手を取る？それとも、まだ体力に自身があるの？」

「分かつたよ。」

「良かった。先に言つておく。僕は、未来人だよ。」「はあ？ 鬼の次は、未来人かよ？ 本当わけわかんないしかも何しに？ 名前は、？」

「全部言われても僕は困るだけだよ？」

まず。名前から、僕の名前は、桂 目的は、過去の人が馬鹿げた鬼ごっこにつき合わされてると聞いて。やつてきた。だから。僕は、君達を助けにここまで来た。2年先から、

君達を助けるためなら、多少のパラドックスも起こすよ。

それが僕達、タイマーズハイ

「タイマーズハイ？」

「そう、本当は話しかやいけないんだけど……未来は、ネットで動いてる。」

「でもどうやって、この時代のことを？」

「過去ネットサーバーから、過去の事件や、事故、色々な事を知る事ができる。ある日。

過去ネットサーバーチャットでこの時代では、最悪なゲームが行われてる」と聞いて。

飛んできた

「にしても……走りながら良く話せるな？」

「うん鍛えてるからね。あの部屋だ。あそこならしばらくの間凌げる。」

「この部屋なら……食料と寝床がある。」

「なら良かった。」

このとき俺は忘れていた。

あの子の事を……

「あの人のお陰で逃げ伸びてこれたけど……あの人誰だったの？ 鬼が七人……逃げ切れるのかな。」「づく……」

生存者（後書き）

俺は、未来人に出会う。
どう言う訳か。

このゲーム、俺の兄が作ったゲームには、色々な人が逃げていそう
だ。

そして、あの子を再び見つける。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6509z/>

des鬼。

2011年12月27日22時53分発行